

私たちの仕事は、特別な日を創ることです

CERESPO

NEWS

vol.
110

February
2019

セレスポ

セレスポ・ニュース
平成 31 年 2 月発行
第 110 号

郡山中央スマートインターチェンジ開通式

人や物、情報の流れを
スマート化！
郡山に新しいICが誕生！

祝
郡山中央スマートインターチェンジ
開通式

セレスポ
Pick Up

「スポーツイベントとSDGs」
開催報告



「復興から発展へ!」

関東と東北を結ぶ要所に新しい玄関が開通



福島県郡山市は、県内でも1、2位の人口を擁する中核都市。

人口は東北地方でもトップ3で、工業、商業、大型医療施設、自衛隊駐屯地などもあり、関東と東北地方をつなぐ要所、拠点としての役割も担ってきました。

人や物、情報の行き来をよりスマートにするため、

2019年1月に新たに「郡山中央スマートインターチェンジ」を開通。

今回は、新IC設立に尽力したNEXCO東日本の佐藤孝仁さん、開通イベントを主催した郡山市の大内健志さんにお話をうかがいました。



—スマートインターチェンジを新たに開通したのはなぜですか？

佐藤さん：郡山市には、東北自動車道が通っており2つのインターチェンジ(以下、IC)がありました。ひとつは国道49号を通って市街地に出られる「郡山IC」。もうひとつは長沼街道から国道4号、市街地に出られる「郡山南IC」。2つの国道から市街地に出られるので利便性は高かったのです



郡山市 建設交通部 道路建設課 大内健志さん(右)、東日本高速道路株式会社 東北支社 郡山管理事務所 佐藤孝仁さん(左)

が、交通量が集中してしまう問題を抱えていました。

大内さん：郡山市は古くから関東と東北地方を結ぶ要所、拠点を担っており、大型の救急医療センターや自衛隊の駐屯地もあります。東日本大震災時には地域や東北地方の緊急対応を行いました。当時、国道で渋滞が発生していたことを受けて、新ICの開通を計画していました。

佐藤さん：郡山市は東北地方の工業、商業の窓口でもある。郡山市への人や物、情報の流出入が増えれば、東北地方の活性化に繋がるため、地域住民のご理解、ご協力もいただきながら工事を進め、やっと開通することができました。

—開通式にはどのような想いを込めましたか？

佐藤さん：郡山市や私たちNEXCOの想い

を地域住民のかただけでなく周辺地域、全国のかたに広く知っていただきたい。開通できたのは地域住民のかたと工事関係者のおかげですので感謝を伝えたい。そして、地域住民と郡山市が「これからの郡山市を作っていく!」と団結する機会にしていきたいとも考えていました。

大内さん：観光なども盛り上げていきたいと、うねめ太鼓小若組にも郡山伝統の太鼓を披露していただいたほか、テープカットにも参加いただきました。地域のかたや開通を心待ちにしていたドライバーのかたも駆けつけてくれましたし、天気にも恵まれ、とても良い式典になったと満足しています。

佐藤さん：工事の関係もあり、開通式の日取りがなかなか決められませんでした。11月に説明会を行い、準備期間は12月から約1ヶ月。寒さに備え、テントやストーブの用意、式典会場からテープカットの場



音楽都市郡山のゆるキャラ「かくとくん」と「おんぶちゃん」

NEXCO東日本のゆるキャラ「マナーティ」



EventData

- 郡山中央スマートインターチェンジ開通式
- 2019年1月13日
- 郡山中央スマートインターチェンジ
- 郡山市、東日本高速道路株式会社

所への移動など考えることが多かったのですが、セレスポさんはこちらの希望を汲んで対応してくれました。前日のリハーサルに判明した複数の問題についても即座に対応策を考え、当日まで仕上げただけで本当に助かりました。

大内さん：震災から約8年、福島や東北地方も復興してきました。これからは復興か

ら発展へ。震災以前の郡山市を越えられるように地域住民、企業と協力して郡山市を盛り上げていきたいです。

インタビュー所感

イベントには、「かくとくん」と「おんぶちゃん」という郡山市のゆるキャラもかけつけていました。郡山は世界的な音楽会、合唱祭を開催することが多く、70年代には市民の手で野外ロックコンサートも行うなど音楽と縁の深い土地。街にあるベンチもピアノや音符をかたどっていました。郡山伝統のうねめ太鼓、「復興から発展へ」と展望を語る大内さんなど、郡山の力強さ、底力を感じる取材でした。



REPORT 株式会社セレスポ 福島支店 山縣 洋志(やまがた ひろし)

「これができたら嬉しい」、理想を実現していく仕事

インターチェンジの開通式はこれまでも担当させていただきました。常に安全を第一に考え、報道関係者の進入可能エリアを明確にするほか、来場者や参加者のお名前や肩書きがわかるようにネームプレートも準備することも重要な仕事です。お名前を間違えないこと以外にも、不審者の判別にもつながります。

こうした安全性の確保を考えるほか、写真写りが良くなるようす玉のステージの場所、時間なども考えていきます。今回は「阿武隈山系をバックにしたい」と要望いただきましたので、式場テントの位置をずらし、VIPの導線を練

り直すなど工夫をしました。

主催者さまは「これができたら嬉しい」と理想を話してくれます。イベントの仕事は、主催者さまからいただいた理想を細かく分けて、1つひとつ現実に変えていく仕事です。これは参列者に喜んでいただくこと、不手際なくイベントを無事完了することにつながっていきます。

また、どんなに気をつけていても日程変更や「あの備品が必要かも…」と不測の事態が発生してしまいます。起きたときに「どうしよう」と焦るのではなく、事前に想定し「どうすれば」余裕を持って取り組めるかを常に考えています。今



回の開通式は事故もなく無事終わることができました。主催者さまに「セレスポさんのおかげです！」と手を握って感謝していただきましたが、参列者や主催者さまが喜んでくれたことが何より嬉しいです。

セレスポ
Pick Up

「スポーツイベントとSDGs」 開催報告

2019年1月23日にイノホール&カンファレンスセンター（東京都千代田区）にて、サステナブルイベントセミナー「スポーツイベントとSDGs」を開催しました。

Fiona Pelham氏(Positive Impact代表)、本田 祐嗣氏(ラグビーワールドカップ組織委員会)、川延 昌弘氏(株式会社博報堂DYホールディングス)を講師としてお迎えし、イベント産業界の2019年以降の成長機会の創出とともに、イベントの社会的価値の向上の実現に向けてSDGsの理解を深めるための講演と、3名によるパネルディスカッションを行いました。

当日は、100名を超える方にご参加いただき、大好評でセミナーを終了することができました。ご参加いただいた皆さま、ありがとうございました。

セレスポでは、定期的にサステナビリティに関するセミナーを開催しておりますので、ご興味ございましたら、ぜひご参加ください。



Fiona氏



本田氏



川延氏



グラフィックレコーディング

セミナーでは、innovation-team-dotのdot グラレコ部のみなさんによるグラフィックレコーディングが実施されました。講演内容を議事録としてイラストやグラフィックでわかりやすくまとめていただき、終了後にそれを見ながら講師と参加者同士の交流や意見交換を行いました。

(<https://www.innovation-team-dot.com/easel>)



発行 発行日：平成31年2月25日

発行元 株式会社セレスポ (CERESPO CO.,LTD.)
〒170-0004 東京都豊島区北大塚1-21-5 (本社)
TEL : 03(5974)1111 FAX : 03(5394)7651
<http://www.cerespo.co.jp/>

編集 山川 譲 (yawn)
記事 コーポレートデザイン室
デザイン 山本制作所

CERESPO NEWSに関するお問い合わせは
株式会社セレスポ コーポレートデザイン室(cd@cerespo.co.jp)まで

編集後記

新しい道を歩いたり、新しく買った服を着たり、新しいことを始めてみたりと、新しいコトやモノは自分をワクワクさせてくれることが多いと感じます。今回の特集の新しいインターチェンジの開通にあたっては、通行可能になる時間の前から多くの方がいらっやっており、地元の方も楽しみにいらっやるのが伝わってきました。新しいインターチェンジの開通で、利用者の生活もより便利になり、緊急時の対応も万全になることと思います。私も、これからの自分のなにかに繋がってほしいなと思い、なにか新しいコトに挑戦してみようかなと思っています。

さて、末筆になってしまいましたが、2019年もスタートしました。今年もCERESPO NEWSをよろしくお願いいたします。